

# 営農だより 野菜版1号

JAふじ伊豆御殿場営農経済センター  
2025年(令和7年)4月4日発行

☆適期管理・適期防除・適期収穫で品質の良い野菜を栽培しよう!!

## ダイコンの栽培

～春まき大根の栽培に挑戦! 土壌はあまり選ばないが、  
土作り・深耕をしっかり行いましょう～

御殿場地区内において、3・4月播種で栽培される春まき大根の収穫時期となる6月は、全国的に大根の出回りが少ない端境期となります。春まき大根の栽培にチャレンジしてみませんか? ファーマーズ御殿場では、周年を通じて需要のある作物であり、当地域では夏場を除いて周年で栽培が可能です。是非挑戦してみてください!!

【栽培のポイント】 おすすめ品種: トーホク交配 春大根 春の光

～春まき大根の栽培はトンネルやマルチを使い生育初期の昼間の温度を高めにする～

### 1. 特徴

- ①発芽適温: 20～25℃、最低4℃、最高35℃
- ②生育適温: 17～21℃、最低5℃、最高32℃

－5℃以下で凍害発生  
42℃以上で高温障害が発生

### 2. ほ場準備

- ・水はけの良いほ場を選ぶ。⇒排水が悪ければ高うねにする。
- ・大根は直根性で根が深く生育する為、できるだけ深く耕す。(30cm以上)。
- ・石や雑草の根などを取り除く。

### 3. 施肥

資材名	資材名	施肥量(1aあたり)	備考
土壌改良剤	苦土石灰(粒)	9kg	播種の2週間前に施用
元肥	園芸化成S550	10kg	播種の1週間前に施用
	ようりん(粒)	4kg	

※堆肥は股根の原因となるため、前作に施す。

### 4. 防除

フォース粒剤をキスジノミハムシ対策で1a当り600g～900g播種時に散布し土壌混和する。

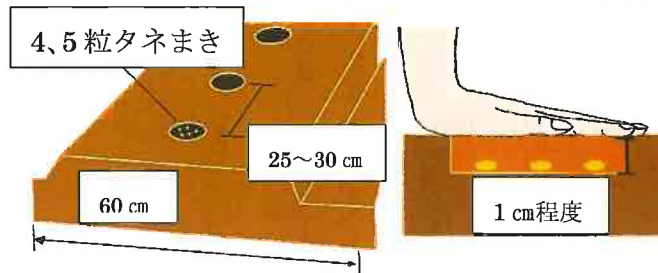
※フォース粒剤は劇物の為、購入の際は印鑑(認め印)・身分証明書をご持参ください。

**キスジノミハムシ** 被害は葉と根部に見られ、葉には1mmほどの丸い食痕がある。根部の被害は幼虫の食害により起こり、サメ肌状の傷跡として残る。

**タネバエ** 被害は根の表面に対して、ほぼ直角に内部に侵入する。1本当りの食痕数は1～5個が一般的である。地際部から5cm程度の所に食害があり、生育中期から後期に被害がよくみられる。

### 5. 播種

- ・ほ場が乾燥していたり、雨が少なかったりする時期は事前に灌水しておく。
- ・昼間の温度を高くするため、マルチを張る。
- ・1つの穴(ビール瓶などの底を押し付け深さ1cm程度の穴)に4～5粒播き、土を1cm程度かけ軽く押さえる。株間は25～30cm、畝幅は60cm程度とする。



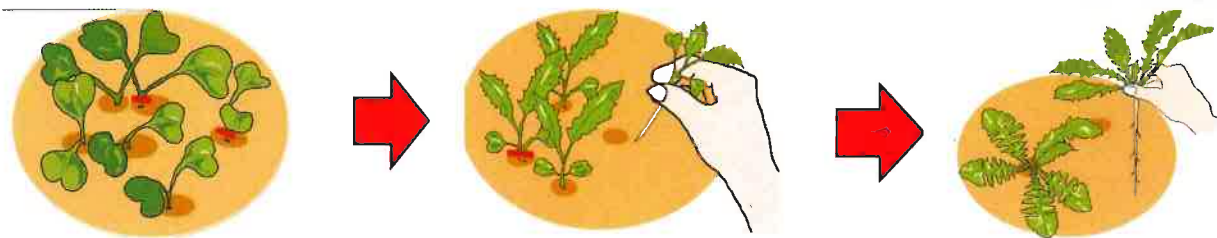
・大根は株間を狭くすると生育が遅れ、広くすると促進されます。栽植密度を広くすると収穫期の肥大速度が速く、収穫適期幅が狭くなるので注意が必要です。

### 6. 間引き

①子葉の形が正ハート形のものを残し、丸形、長形のものを抜く。

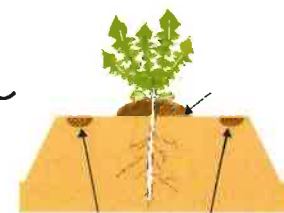
②2回目は本葉2～3枚のとき。1カ所2本立ちにします。

③3回目は本葉5～6枚のとき。生育のよいものを残し、1本立ちにします。



### 7. 土寄せ

降雨後の乾燥などで畝の表面が固くしまった時などは条間を浅く中耕し、根に空気を送ることが大切。また、葉が徒長して株が安定しない時や台風などで強風が吹くことが予想される前には株元に軽く土寄せする。



### 8. 収穫

根の直径が7cm程度になったら収穫可能。根元を持ち、ゆっくりと引き抜く。白首ダイコンなど吸込み系大根の場合は、移植ゴテ等で周りの土を崩してから引き抜くと折れずに収穫できる。葉にはビタミン類が多いので、捨てずに食べるようにすると良い。

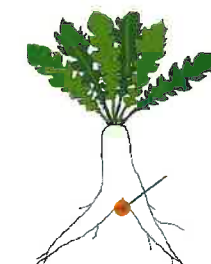


### ＜栽培のポイント＞

「ダイコン十耕」というくらい、土作りと深耕が重要。発芽して直根が真っすぐ地中へ伸びる時に先端の成長点が土塊や肥料に当たったり、乾燥したりすると痛んで又根になる。輪作体系の中にライ麦等の緑肥作物を導入することで土壌の通気性や排水性を保持する等の土壌改良効果がある。またネグサレセンチュウを抑制する効果も期待できる。

### 【又根の原因】

- ①固い石や土の塊などの障害物に当たる。
- ②未分解の堆肥等の肥料に当たる。
- ③間引きが遅れて、長く倒れた状態にある。
- ④土壌中のセンチュウに加害される。
- ⑤水源が近いと、水に向かって根が伸びる。



## タマネギの管理

～今後の管理が収量に大きく影響します！！  
管理を怠らないようにしましょう～

3月で追肥を終え（止め肥）、4月からは本格的に防除の季節となります。病害が発生してから治療散布ではなく、発生する前に予防散布を行うよう心がけましょう！

また、過去にも御殿場地区内において病害（べと病、疫病）の発生が確認されている為、下記の防除例を参考にしてください。

**べと病** 感染すると生育が遅れ、葉に光沢が無くなって淡黄緑色になり、横にやや湾曲するように伸びる。春になり暖かくなると全身に白色のつゆ状または暗紫色のかびが発生し、葉は病斑部で折れ枯死することもある。原因は降雨や農作業による泥はねが葉上につくことによるもの。

**白色疫病** 発病は主に葉の中央部付近。青白色の病斑を生じる。病斑が拡大すると葉は下垂したりよじれたりする。発生期は晩秋から春3～4月にかけて厳寒期を除いた時期である。気温が15～20℃で、多雨の場合発生が多い。3月の温暖や4月の冷涼で連続降雨があれば多発する。

**灰色腐敗病** りん茎を侵し、葉を黄変・軟化させる。地際部から地下部に灰色の粉状のかびを生じ、被害が著しいものでは葉が鮭肉色から白色に変わり立ち枯れる。1～3月の多雨、収穫前の浸冠水、早梅雨、収穫後の多湿条件などにより発病する。

### 1. 防除例

散布時期	薬剤名	対象病害
4月上～中旬	プロポーズ顆粒水和剤	べと病、白色疫病、灰色かび病
4月下～5月上旬	ランマンフロアブル +ベルコート水和剤	べと病、白色かび病+灰色かび病 灰色腐敗病
5月中～下旬	リドミルゴールドMZ	べと病、白色疫病
収穫7日前	シグナムWDG	灰色かび病、べと病、小菌核病

※タマネギは水を弾く為、必ず展着剤<ミックスパワー>と混用し散布しましょう。

#### 《ミックスパワー》

高い濡れ広がり性能により、散布液をはじきやすい作物にも均一に付着させ、薬剤の効果が安定する。薬剤による作物の汚れを低減する。

- ・降雨や強風後は、葉や茎を観察するよう心掛ける。
- ・病害発生株は発見次第抜き取り、必ずほ場の外へ除去する。
- ・農薬は、必ずラベルを熟読の上使用する。

薬剤名	希釈倍率	使用量 (1aあたり)	使用回数	収穫前
リドミルゴールドMZ	500～1,000	10～30L	3回以内	7日前まで
プロポーズ顆粒水和剤	1,000	10～30L	3回以内	7日前まで
ランマンフロアブル	2,000	10～30L	4回以内	7日前まで
ベルコート水和剤	1,000	10～30L	5回以内	前日まで
シグナムWDG	1,500	10～30L	3回以内	7日前まで
ミックスパワー(展着剤)		3.3ml / 散布液10L		

### 2. 排水対策

- ・御殿場地区は4月に降水量が多くなる為、停滞水が発生しないように明渠を掘り直し、排水溝への接続をしっかりと行う。
- ・降雨より1週間程度で病気が広がる可能性もあるので注意が必要。

※来年度よりJAにタマネギを出荷していただける方は地区営農課(84-4820)にご連絡ください

## ニンニクの管理

～春腐病の対策をしっかりと行いましょう！！～

### 1. 春腐病対策

※茎葉が病気等に侵されると株がとけてしまうので予防的に防除することが重要

**春腐病** 病原菌（細菌）は12月に入って季節風や凍霜害によってできた傷から侵入し、春になり気温上昇により拡大する。気温10℃前後の低温、多湿環境で発病し始める。病原菌はニンニクの体内で活発に増殖して腐敗枯死させたり、鱗茎の変色や裂球を招いたりする。冬場の予防が重要となるので発生が見られるほ場については次回の作付けの際には対策を徹底する。

#### 【防除のポイント】

- ・前年に発生したほ場は必ず防除する。  
⇒収穫まで7～10日おきにZボルドーを予防散布する。
- ・発生してしまったらアグリマイシンを散布する。防除時期は4月～収穫まで。

薬剤名	対象病害	希釈倍率	使用量 (1aあたり)	使用回数	収穫前
Zボルドー	春腐病・さび病・ 白斑葉枯病	500	10～30L	—	—
アグリマイシン-100	春腐病	1000	10～30L	3回以内	7日前まで

### 2. とう摘み・除とう（5月）

- ① 1株から2本以上芽が出ている株は生育の良い株を残し、早期に丁寧に根元から取り除く。
- ② 抽だいできたら随時早めに摘み取る。
- ③ 芽を収穫する場合は十分伸ばしてから珠芽（しゅが）の下部を収穫する。

珠芽（しゅが）とは…主に葉の付け根にできる芽の一種。